

# ひめまつ

58



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次 (第五十八号)

表紙……神山千明 題字……石川木魚 写真……写真部・編集委員会

グラフ 「学園の四季」

随想 入試激励会と合格祈願 …………… 校長 須賀 淳…………… 1

随想 ドラム缶の一番風呂——私のリゾート開発物語—— …………… 副校長 須賀 英之…………… 5

特集 …………… 10

RENEWAL! 普通科特進コース・応用文理コース

本校独自の学習指導 ～夢を実現するための三つの柱～

本格的な大学の講義を体験! 平成十五年度第一回高大連携講座を受講

那須大学が新たに! 宇短大も充実 ～人間福祉学科と音楽科～

明るく活発な生徒会づくりを(新生徒会長に就任して) …………… 羽鳥 可奈子…………… 15

素直な感謝の心を得て(任期を終えて思うこと) …………… 有坂 真奈美…………… 16

〈声〉 須賀学園二〇〇三 —フレッシュな学園を目指して— …………… 17

いとしき歳月

ここから

三年一組 設楽 貴生

一年三組 吉田 千春

\*心に強く響くもの (校内読書感想文コンクール入賞作品) …………… 18

【第三学年の部】 校長賞

一位 遠藤周作・著『沈黙』を読んで …………… 一組 伊藤 文香

二位 星野一正・著『医療の倫理』を読んで …………… 一組 横 みのり

三位 DIIベナック・著『片目のオオカミ』を読んで …………… 八組 浅香 佳子

【第二学年の部】 校長賞

一位 ドフトエフスキー・著『罪と罰』を読んで …………… 一組 倉井 彩

二位 太宰 治・著『走れメロス』を読んで …………… 八組 石村 直樹

三位 「小さな親切」運動本部・編『涙が出るほどいい話』を読んで …………… 二十組 山口 智大

【第一学年の部】 校長賞

一位 WIIシェークスピア・著『リア王』を読んで …………… 二組 木口 由加里

二位 灰谷健次郎・著『太陽の子』を読んで …………… 一組 石橋 美菜

三位 伊集院 静・著『機関車先生』を読んで …………… 十二組 石井 彩

【講評 (読書指導係から)】

□作品集

「ねんりんピックとちぎ2003」長寿社会に向けての主張コンクール・優秀賞

「居心地の良い家庭から住みやすい街へ」

二年五組

宮本裕香

自由作文

「日本人」再発見の旅

～十五歳～

三年三組

中村真由美

★あとらんだむ

一年間の反省と二年生になる抱負

二年間の反省と三年生になる抱負

旧一年十組

宇賀神かおり

旧一年十五組

関谷真由美

旧二年二十二組

平野偉人

旧二年二十四組

稲葉晴郎

♪関西・東京臨海副都心・那須の旅

「人間の強さ」を知った修学旅行

～「反戦と防災の気持ち」を新たに～

修学旅行を振り返って

ほかほか古都（ふるごおり）家族（くわい）

お台場ツアーを満喫！

～東京臨海副都心へ一日旅行～

一日旅行より

那須りんどう湖・ファミリア牧場へ

三年一組

伊藤文香

三年二十二組

大門恵

二年二組

笹沼綾乃

二年四組

栗原彩乃

一年三組

吉田千春

一年十組

細野雄太

招待席

「英語と接して五十年」

ダイグレッション

非常勤講師（英語）

薄井 仁

◇わがホームルーム紹介

三年・二年・一年

福田 繁人

◆委員会・クラブ紹介

美化・図書・編集

JRC・理科・華道・インターアクト・服飾手芸・囲碁将棋・ブラスバンド・演劇

弓道・水泳・新体操・剣道・男子バレー・卓球・男子バスケット・サッカー・女子バレー・男子ソフトテニス・女子ソフトテニス・女子バスケット

★学園告知板

那須大学の第三代学長に、副校長・須賀英之先生が就任！

全国調理師養成施設協会から表彰！

モーターアート作曲クリエイエムに感動！ ～宇短大特別定期演奏会を開催！

高橋美帆さん（普通科特進コース二年）が書道で日本武道館賞を受賞！

きのこ・山菜料理コンクールで最優秀賞（栃木県知事賞）に！

イギリスのトムリンスコート・カレッジが来校、ミュージカルを上演！

生活教養科三年生が「とちぎフレッシュユメイト」の冬服をデザイン！

宇都宮短期大学附属中学・高等学校

校歌

作詞 菅谷 徳次郎  
作曲 野原 幸夫

ふに たわ のに たし 一 かげ ねれ をる はひ め かま にっ あこ おま 二 ぎつ  
まか なわ びら のぬ みみ ちさ すお じは まち きよ きくろ あす れよ とど  
かか たた みに ち二 かわ い て い そ し し み は は げ む  
おま しな えび のに 二 わわ (こ) げに に とめ うで た け れ  
あ わ れれ とめ うで とた こ 一 の まま なな びや

校歌

一 一 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ  
学びの道筋 まさきくあれと  
かたみに誓いて いそしみ励む  
教えの庭こそ げに尊けれ  
あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松  
変わらぬ操は 千代万代と  
かたみに祝いて いそしみ励む  
学びの庭こそ げに芽出度けれ  
あわれ芽出度 この学びや

投書

教育実習生、母校の教壇に

数学 福島大学教育学部  
情報 駒澤大学経済学部  
音楽 宇都宮短期大学音楽科

田代 麻美  
仲島 啓輔  
池田 貴子

附属中コーナー

この一年間のおもな活躍 各種コンクール入賞・書道展作品  
クラス紹介・行事紹介・校内読書感想文コンクール・校内自由作文コンクール  
俳句選・一年二組現代詩選・各種「善行賞」を受賞  
写真で見る中学校生活

那須大学・宇短大(人間福祉学科)コーナー

平成十五年度生徒会報告

就職状況

職員住所録

編集後記

編集委員長

設楽

貴生

学園の四季



▲昨年三月十五日(土)に栃木県総合文化センターメインホールで行われた特別定期演奏会から。

ソリストは、世界で大活躍中のソプラノ歌手  
中丸三千繪さん(音楽科卒業生)。  
混声四部からなる六百名の大合唱団をリード  
くださいました。



▲4月9日(水)に総合体育館メインアリーナで行われた  
高校入学式で、新入生から「誓いのことば」を渡される  
須賀 淳校長先生。



▲平成元年から恒例となったエプロン  
寄附の贈呈式で、宇都宮市長の福田  
富一先生。(創立者・須賀栄子先生の  
ご命日に当たる10月14日(月)、宇都宮  
市役所市長室にて)



▲10月24日(金)から26日(日)にマロニエプラザで開催された「ふるさと栃木  
フェア2003」で、自作のコスチュームを披露する生活教養科の皆さん。

一人は  
一校を  
代表  
する

昭和四十年六月から全教室に掲げられ  
てある本校の生徒生活目標です。

第二代理事長・校長であった須賀友正  
先生は、その意味を「生徒の一人一人が  
それぞれに本校生徒としての価値を知っ  
て、その価値を自分で見捨ててはいけな  
いと言う」ことと「ひめまつ」第三号(昭  
和二十四年二月発行)の中で述べていま  
す。

(書は、本校教諭でもあった栃木県を  
代表する書家・石川木魚先生)

# 須賀学園創立103周年記念学校祭を開催!

▶ 本学園百三年の伝統を継承する茶道部。茶席「陸塵」で真心の一期をどしぞ。



本学園創立103周年を記念した中学・高校合同の学校祭が、昨年の11月1日(土)と2日(日)の2日間にわたり、4,000名をこえる中高生や一般のお客様をお迎えて盛大に行われました。まず、校舎内の第1会場では系列校や各学科・委員会・クラブ、普通科各クラスの展示と実演。第2会場(須賀栄子記念講堂小ホール)では音楽科生徒の電子オルガン生演奏もご堪能いただきながらの調理科による大食堂。第3会場となった



▲インターアクト部の提唱クラブである宇都宮西ロータリークラブの皆さまが多数来校されました。



▲音楽科生徒の皆さんによるオペレッタ。「美女と野獣」からグランドフィナーレ!

Catch the future  
~未来を切り拓け~

▼普通科2年4組(特進コース)の美女5人で、ハーブティーのサービスです。テーマは「癒し」。

▲普通科1年1・2・3組(特進コース)の合同企画「映画」から。シネマ・ギャルのおでむかえー。



▶ 学校祭のクラス展示から(普通科進学コース二年八組・四十二名の皆さんによる「鶴」THIR BEAMS)。平和への願いを込めた一万羽の鶴は、広島市役所へ贈られました。



大ホールでは生活教養科のファッションショーや音楽科のオペレッタ、演劇など。第4会場・総合体育館メインアリーナでの運動部招待試合。そして中庭プロムナードとグラウンドには第5会場の屋台村が出現! 思い出に残る楽しい2日間になりました。



▲今年度大活躍のプラスバンド部。「楽しく★熱い心」をモットーに練習を重ねた私たちの青春のハーモニー。(指揮は、根本英孝先生)



宇都宮名物、生活教養科のファッションショーから。(須賀栄子記念講堂大ホール)



▲「ラ・マドレーヌ パラブリュイ」調理科自慢プロの味を召し上げ。メニューは、ポテトフライに唐揚げ、海老マヨ、そしてできたてのマドレーヌ……。

随想

入試激励会と合格祈願

校長 須賀 淳 あつし



高校の第三学期は大学入試のシーズンです。本校の図書館前に発表される大学合格状況の大きな張り紙には、推薦入試の合格者に加えて、一般入試の合格者が続々と加わり、たいへんにぎやかになります。

本校では、一月中旬に実施される大学入試センター試験の直前に、高校三年生の出陣式ともいべき入試激励会が講堂の大ホールで盛大に開かれます。年末までに推薦入試で合格をきめた人も多く、なかには慶應大や獨協医大などに指定校推薦で合格した人もいます。しかし多くの人が二月からの一般入試に挑戦するわけですから、この入試激励会では、大きなダルマに目を入れて合格祈願を行います。さらにセンター試験の当日は、三年担任の先生方が早朝からセンター試験会場に向いて、本校生徒の皆さんを激励します。



▲(財)日本ソフトテニス連盟から平成15年度優良団体賞をいただいた男子ソフトテニス部の皆さん。全員で勝利のガッツポーズ!



▲7月5日(土)に行われたスポーツフェスティバルから。(女子バスケ決勝戦)

生徒会

行事あれこれ



▲学校祭での演劇部の舞台から。(創作劇「ハッカ〜時を超えるニヤ〜」)



▲普通科2年1組(特進コース)のバビリオンは、昭和30年代の町並の再現。日本の古き良き時代の懐かしい空気をお楽しみいただきました。(学校祭でのクラス展示から。)

生徒会役員

- |   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| <br>副会長<br>越 沼 梓   | <br>副会長<br>黒 崎 美 保       | <br>会 長<br>羽 鳥 可 奈 子 |   |
| <br>庶 務<br>栗 田 一 樹 | <br>庶 務<br>齋 藤 由 季       | <br>会 計<br>鈴 木 春 香   | <br>会 計<br>柿 沼 未 輝   |
| <br>議 長 団<br>谷 麻 琴 | <br>議 長 団<br>津 布 久 有 利 枝 | <br>議 長 団<br>阿 部 晴 子 | <br>議 長 団<br>中 島 祐 実 |

最近の大学入試は、少子化や大学の新增設で入りやすくなっていますが、難関大学に合格するためには、やはりしっかりと勉強して、よい成績をおさめなければなりません。これは昔も今も変わることはありません。私は入試激励会で受験生の皆さんに励ましの言葉を贈るのですが、本校に入学以来きびしい受験勉強にがんばってきた生徒の皆さんの顔を見ると、私が皆さんと同じ年ごろの受験生時代を思い出し、感慨無量なものがあります。

私の受験生時代は大平洋戦争の真つ只中でしたから、食料不足や勤労動員等のために、現在の受験生のように恵まれた環境で勉強に専念できる状況にはありませんでした。学校では体育や柔剣道の授業時数が増加し、さらにきびしい軍事教練もありましたので、体力のない私はたいへんつらい思いをしました。勉強不足のため希望校に合格することができず、一浪して東京の予備校で勉強しました。現役で合格するのが望ましいことはいまでもありませんが、浪人をして挫折感を味わったことは、私の人生においてよい経験になったと思います。しかしただ漫然と浪人をするとはいけないことで、一年間十分に学力をのばして、よりよい大学に合格を目指すということであれば浪人は避けるべきでしょう。

私の時代は浪人していると、徴用されて工場等で働くことになる不安もあり、さらに国民皆兵ですから、徴兵年齢（満二十歳、あとでは満十八歳にまで引き下げ）になると軍隊に入らなければなりません。余談ですが、今年の大学入試センター試験の世界史Bの問題に、戦時中日本統治下の朝鮮で起った「強制連行」が選択肢の正解として出題されました。これに対し、当時強制連行という用語はなく、日本国民としての徴用であるから、不適切な出題であると新聞で報道されたことはご存知のとおりです。

さて、私の受験勉強の総決算である入試日まであと数日と迫ったとき、私は風邪をこじらせて四十度の高熱を出してしまいました。東京の火の気のない四畳半の下宿で、食事もとらず寝ていて、不安はつのるばかりでした。東京に住む伯父がたまたま私の下宿に立ち寄って、この様子をみて驚き、自分の家へ連れ帰り、医者にもみせて看病してくれました。知らせを受けた母がびっくりして宇都宮から上京してきました。



おかげで入試の当日は少し熱も下がってきました。当時は入試に親が付き添ってくるなどという風習はありませんでしたが、母は入試合場まで付き添い、寒風のなか戸外で待っていてくれました。戦争中の入試は、筆記試験や口頭試問（面接による学科試験）のほかに、体力テスト（持久走）から執銃帯剣の軍事教練のテストまであって大変でした。私はふらふらする体で歯をくいしばって走りました。いよいよ最後の口頭試問の会場に入るとき、母は無言でバッグからはほべにをとり出し、私の両ほに目立たないようにべにをさしてくれました。私の青白い顔では不合格になるのではと心配しての薄化粧でした。私は思わず涙が溢れ出しました。このような私の体験から、受験生の皆さんには、入試直前は健康に十分注意をして、ベストコンディションで入試に臨んでもらいたいと祈らずにはいられません。こんな受験でしたが、幸いに合格することができ、さあこれから大学卒業までの数年間は、徴兵猶予の恩典を受けて、兵隊にと



られることもなく、安心して学生生活を送ることができると思っていたのも束の間、戦争は急速に敗色が濃くなり、文系の学部学科の学生は突然徴兵猶予の恩典を取り消されて、戦場に赴くことになったのです。いわゆる「学徒出陣」です。私たち文系の学生は、祖国を守るためにペンを捨てて銃を執りました。南の島々では玉砕が相次いでいる戦況でしたから、私たちは生きて還れるとは思っていませんでした。私の同級生のなかには、神風特攻隊としてフィリピンの海に散った人、無実の罪を着せられて、ビルマ（現在のミャンマー）で戦犯として絞首台の露と消えた人、終戦直前に満州（現在の中国東北部）に侵攻してきたソ連軍と戦い、シベリヤに抑留されて還らなかった人がいます。私は無事に軍隊から戻ることができましたが、もともと体が丈夫でなかったため、軍隊のきびしい訓練で体をこわして、不甲斐なくも長い間陸軍病院に入院したりしました。終戦後は宇都宮で体力の回復につとめるとともに、昭和二十年（一九四五）七月の宇都宮大空襲で全焼した本校の戦災復旧に、父である須賀友正校長や先生方、生徒たちと一緒に働き、翌年四月から大学に復学しました。

東大の安田講堂前の法文経教室のいちよう並木は、陸海軍の軍服姿の学生で溢れていて、なつかしい友と再会をよるこび合いました。しかし生きて再び学窓に戻ることのなかった友を思い、申しわけない気持ちで一杯でした。

本校の入試激励会では、私は毎年このような思いで三年生の皆さん姿を見つめています。現在、陸海空自衛隊のイラク派遣などという出来事はありますが、私は日本の学生生徒の皆さんが、この平和な日本において、衣食になんの不足もなく、ましてや徴兵の不安などもなく、あたたかい部屋で毎日勉強できる幸せを思い、それに感謝して、しっかりと勉学に励んでほしいと心から願っています。

随想

## ドラム缶の一番風呂

—私のリゾート開発物語—

副校長 須賀 英之



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また一、二年生も進級をひかえて、心構えを新たにしていることと思います。今、日本経済はバブル崩壊より十数年にわたる長期低迷からようやく抜け出しつつあり、先行きにはやや明るさも見えはじめています。しかし、まだ景気は持続的な力強さに乏しく、皆さんが近い将来羽ばたく社会にはなお厳しい現実が待っていることも予想されます。

特に足利銀行の一時国有化による本県経済への影響が懸念されており、できるだけ早く、県民のための新たな銀行として再出発できることを願うばかりです。日光や鬼怒川などの観光業界では、同行からの融資シェアが高かっただけに、折からの消費不況の逆風もあり、懸命の経営努力を余儀なくされています。本県は世界遺産の日光社寺など観光資源に恵まれていますが、それだけでは順風満帆と

はいかない現状です。

ホテルは「箱物」とよばれ、建物を建設して設備を整え従業員を訓練するなど、あらかじめ大きな投資をして、それを長期間にわたって少しずつ回収する事業収支構造になっています。ですから、大きな経済変動の波が襲っても、そう簡単に経営を転換することはできません。私にも銀行勤務時代にリゾート開発で苦心した経験があります。

\* \* \* \* \*

場所は、伊豆半島の別荘地、伊豆高原。問題の土地は、大島を間近に望む太平洋に面した高台にある国道沿いの景勝地ですが、大規模なリゾート計画がバブル崩壊により頓挫し、多額の借金潰れの草ぼうぼうの荒地となっていました。銀行としてもかなりの損失は覚悟したものの、ここで完全に撤退しては、観光開発による地域活性化を期待した地元との信頼関係を損なうこととなります。しかし、かといってこれ以上新たな資金を投入するわけにもいきません。そこで立てた事業計画は、①中堅のサラリーマン等個人を対象とした会員制ホテルとすること、②規模は百室弱の運営効率の良いものとする、③質の高い温泉施設と食事を最大の魅力とすること、以上の三点を骨子と決め、企画力と販売力のあるデベロッパーをパートナーに選定しプロジェクトを再スタートさせました。

まずは、敷地内に温泉を掘ることから始めましたが、当初は岩ばかりしか出ず「衛星探査までして調査したのに」と冷や冷やさせられました。ようやく千メートルほど掘り進むと、急に豊富で熱い温泉が噴出しました。その時には喜んで、仲間みんながドラム缶で「一番風呂(?)」に浸かったものです。この源泉を利用して湯船からお湯が海に落ちるように見える雄大な露天風呂や五メートルの落差のある打たせ湯など、「ここだけ」と誇れるような特色ある施設を作ることになりました。

また、新鮮な魚介類を食卓に乗せるため、後継者難から一時休止していた地元の定置網漁業を再開させました。これは、中近東で海洋土木工事に携わっていた日本の建設会社勤務のご夫婦の熱意によるものでしたが、富山県氷見市で近代的な漁法を行っている漁業会社から技術指導を受けたことも大きな力となりました。漁労長と夜明け前の漁から戻り、一緒にかじかんだ手を日本酒で温めたことは忘れられない思い出です。

ホテル運営や調理は、京都や蓼科でリゾート感覚に優れたホテルを経営している企業に、また、建物の設計やインテリアデザインは皇居の新吹上御所を設計した建築家に依頼しました。「著名な建築家の設計であれば、建設会社も実績が誇れるので、安く工事を請け負ってもらえるだろう。」という皮算用があつたからです。

当時は、山一證券や長銀の経営破綻といったバブル崩壊後の大不況期でしたが、私たちプロジェクトに係わった各企業担当者の必死の営業努力によって、予定した会員権の販売も順調に進み、新たな借入金もほぼ完済して、無事、開業を迎えることができました。

大規模で豪華なリゾートホテルではありませんが、伊東市のこだわりの干物屋さんから朝食用にアジの開きを取り寄せたり、部屋のスリッパ代わりに一回ごとに消毒したぞうりを用意したり、利用する個人の視点で、清潔で快適な滞在のために、できる限りのサービスを心がけました。そのかいあつてか、利用者からの評判も上々で、バブル時代の会員券の値上がり期待ではなく、会員が繰り返し訪れクラブライフを楽しむアットホームなホテルとなったのです。

\* \* \* \* \*

さて、私のこのような経験から生徒の皆さんにぜひ感じとっていただきたいことがあります。いく

ら景色の良い土地でも、ただそれだけでは何にもならないのです。綿密な調査の上で温泉を掘り、工夫を凝らした建物や食事を開発して、さらに心配りの行き届いたサービスを行い、「ここだけ」しかない独創的なものにしなれば、しかも限られた時間や資金など制約条件の下で成し遂げなければ、この厳しい時代には生き残れないということです。また、現状に満足して立ち止まっていれば、すぐに競争から脱落してしまうのです。

皆さんは一人ひとり、優れた能力や特性を持って生まれてきています。しかし素晴らしい個性も、さまざまな努力によって初めて花開かれます。このプロジェクトがそうであったように、多くの人々の出会いによって、さらに自分が磨かれ、今まで気づかなかった才能が開発され、自分自身を啓発していくことも大切なことです。どのような時にも、自分を見失わずに、自分の個性を信じて、それを最大限伸ばしていくことこそ、本校の建学の精神である「全人教育」の目的です。そのために私たち教職員は、皆さんを大切に、親切に、きめ細かく面倒を見ていくことを、毎日一所懸命心がけ、応援しています。

\* \* \* \* \*

このリゾート施設は二年前、化粧品と健康食品を手がける大手企業が大変気に入り、そのままの形で開発会社ごと買い取ってくれました。銀行の立場で言えば、「不良債権の最終処理が完了した」ということになりましたが、私自身は少し寂しい気持ちでした。しかし、この企業の手によって、さらに隣接地に日帰りの温泉施設が増設され、ますます施設やサービスが充実発展しています。私も先日、久しぶりに家族で訪れてみましたが、その企業の製品をふんだんに使ったエステサロンなども、新しい魅力として加わり大賑わいでした。

帰りの駅までの送迎バスに乗り合わせた品の良い老夫婦に「私たちは最初からの会員で、しょっちゅう来ているのですよ。」と満足そうに話しかけられ、私は思わず「ありがとうございます。」と胸を張って応えてしまいました。

当初このプロジェクトに係わった金融、建設、不動産等各企業の担当責任者は私を含めて、全員が当時の会社を離れ転職しています。これも「産業の構造改革」のあらわれかもしれません。しかし、みんな困難に挑戦した誇りを胸に秘めて、今それぞれ頑張っています。日本経済再生の足音に耳を澄ませながら……。



#### ● 副校長略歴

昭和五十二年東京大学を卒業、日本興業銀行に勤務。人事部副調査役、産業調査部主任部員、本店営業部・業務部副部長などを歴任し、平成十二年須賀学園に戻る。現在、須賀学園副理事長、那須大学学長・宇都宮短期大学学長代理・同附属中学・高等学校副校長、栃木県私学審議会委員、栃木県産業教育審議会委員などをつとめる。

RENEWAL!

普通科・特進コース  
応用文理コース



応用文理コース

多様化する専門学部への進学に  
フレキシブルに対応!

難関大学や多様化する専門学部への現役合格をめざし、より効率的かつ実践的な取り組みをできるだけ早い段階から始めるため、平成十六年四月から普通科・特進コースと応用文理コースがパワーアップされます。

特進コース

明日のリーダー育成をめざした  
スーパーエリートコース!

旧帝大系列の国立大学や早稲田・慶應・上智などの最難関私立大学への進学を第一目標とした普通科・特進コースでは、よりハイレベルな入試に即応した高い学力と、確かな問題解決能力を養成。広い視野と豊かな知性を

身につけた、二十一世紀のエリートとなれる人材を育てます。

なお、平成十六年度からは、高校入学時からすでに医歯薬系学部への進学を決めている皆さんには、精選された応用力重視の授業と豊富な問題演習をおとして、目標を最大限しぼったハイレベルな学力が養成できる「医歯薬特進」(理系)を、また一方、五教科七科目の重量型入試を突破するための調和のとれた総合的な学力が必須となる最難関の国立大学や、一流の私立大学への現役合格を目指す皆さんには「国立特進」(文系・理系)を、それぞれ入学手続き時に、皆さん自身のご希望に合わせて自由に選択いただくことができるようになります。

専門性の高い学部をめざす大学進学に幅広く対応できる応用文理コースでは、まず最初にとりかかり自己の目的意識と職業観を育み、次のステップできめ細かい学習指導と進学指導を効率よく展開していきます。

特に、二年次から実施される希望専門分野に基づく選択授業は、他校では例を見ない画期的なカリキュラムで、人文社会、理工一般、英語国際、情報経済、福祉・看護・医療、服飾・フードデザインの各専門分野を一つのコースに盛り込んだ本校独自の教育課程です。

さらに、各種資格の取得や系列校である那須大学・宇短大人間福祉学科との高大連携講座、校外実習の実施等、実践的な指導を行うのも大きな特色の一つです。

### 本校独自の学習指導

夢を実現するための三つの柱

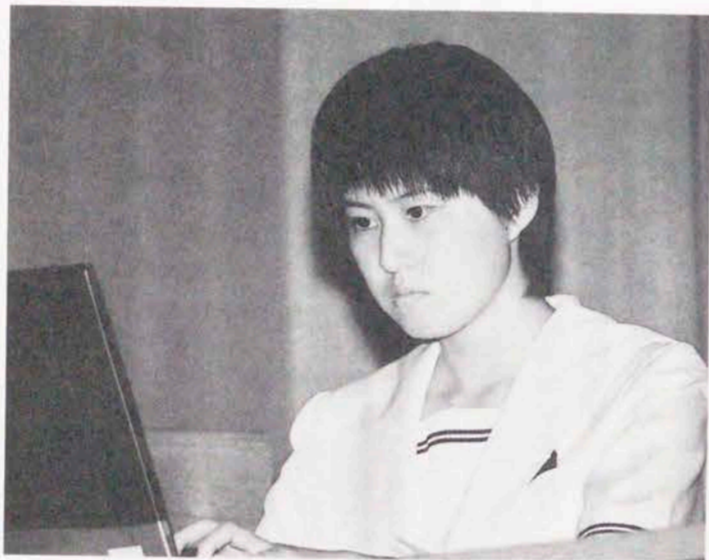
本校では、「学力重視」の流れの中で、独自の学習システムによるサポート体制を完備し、生徒の能力・個性に適応した学力向上策がはかられています。

充実した教科指導(実質週六日制)

月曜日から金曜日までは、平常の六時間授業をベースに、毎月第一・三・五土曜日にも正規の授業を四時間実施し、週三十四時間の授業時間を確保しています。また、その他の土曜日や日曜日は、「総合的な学習」や各種模擬テスト・検定試験、サテライト講座や補習授業、音楽科のレッスンや部活動、学校行事などにあて、真の学力を継続的に身に付けさせる努力をしています。

### 個性を伸ばす多様なプログラム

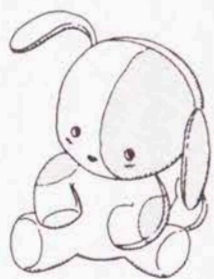
生徒一人ひとりの個性を伸ばし、感性を磨き、その可能性を最大限に開花させるために、八つの学科・コースを設定。多様化する進路に対応した、独自の特色あるカリキュラムを展開しています。また、毎週土曜日は、生徒各自の積極的な「自学自習」の場として



### きめこまかな進路指導

学校を開放。図書館や進学相談室、コンピュータ自習室などが活用できる、本校独自の学習支援環境を完備しています。

本校における進路指導の主眼は、将来の進路を自ら選び取っていくという意欲と姿勢を、生徒自身からひきだすことにあります。そこで、最新の入試情報を迅速かつ正確に伝え、それを活用するために「コンピュータ・リテラシー教育」に力を入れています。大学合格体験発表会や個別相談・保護者面談会等を通して、きめこまやかな進学指導を実践。高校と系列校である那須大学・宇都宮短期大学との連携講座や実習授業も多数開講しています。



**本格的な大学の講義を体験!**

平成十五年度第一回 高大連携講座を受講する  
 昨年の五月十七日(土)午前八時三十分から、須賀栄子記念講堂大ホールで第一回目の高大連携講座が開講され、普通科を主とする三年生約五百名が、本格的な大学の専門講座を体験しました。

同時に、福祉・幼児教育関係へ進学、就職を希望する生活教養科三年生を対象とした「福祉特別授業」が、家庭科特別教室(和室)と各教室で開講されました。

これは、大学や短大の講義や実習を実際に体験させることによって、受験生の大学進学への自覚や意欲を固める一助にしようとするもので、まず今年度第一回目の連携講座になる今回は、普通科では系列校の那須大学から四人の先生方にご登壇いただき、文系・理系の各専攻ごとに二講座ずつ講義い

ただきました。

一方の生活教養科では、宇都宮短期大学から先生方二人をお招きし、実習と福祉講話を受講しました。

以下、それぞれの講義内容を簡単に紹介させていただきます。

**普通科・文系**

**【第一講座】**

講師・那須大学都市経済学部教授

大 關 篤 英 先生

テーマ…日本語の中の英語

日本語の中には、実に多くの英語が取り入れられているが、それらが日本語の中で用いられている意味・用法を考えてみると……

**【第二講座】**

講師・那須大学都市経済学部助教授

和 田 佐 英 子 先生

テーマ…市民とはなに?

**普通科・理系**

**【第一講座】**

講師・那須大学都市経済学部長・教授

大 久 保 忠 且 先生

テーマ…都市に自然が必要なのはなぜ?

「自然」とは、人間が思うように支配できないものである。その「自然」がなぜ都市になくてはならないのかを、「生態回廊」を中心に考えてみたい。

**【第二講座】**

講師・那須大学都市経済学部教授

久 米 良 昭 先生

テーマ…都市の交通を考える  
 ―ロードプライシング―

都市部では、道路渋滞が慢性化するほか、窒素酸化物(NOX)など、自動車排ガスからの汚染物質による健康被害が深刻化している。ノルウェーやシンガポール等、諸外国の事例に学びつつ、日本の都市でもロードプライシングを導入し、あわせて都市再生を促していくための方策を考えることが必須だ。

**生活教養科**

**【コミュニケーションワーク実習】**

講師・宇都宮短期大学人間福祉学科教授

河 田 隆 先生

**【福祉講話】**

講師・宇都宮短期大学人間福祉学科教授

加 藤 定 夫 先生

演目…職業としての福祉と幼児教育

\* \* \* \* \*

その後、関連学部・学科への進学を希望する生徒に対しては、個別進学相談会が開かれ、受験の傾向と対策・学科の特徴などに関するアドバイスが受けられました。



▶ 生徒たち(大ホール)  
 ▲ 普通科・理系の第二講座で  
 ご講義中の久米良昭先生  
 (記念講堂大ホール)

**那須大学が新たに!**

那須大学が二〇〇六年春、JR宇都宮駅西口にサテライトキャンパス開学!

一九九九年四月に開学した那須大学(都市経済学部は日本で最初)が、JR宇都宮駅西口の目抜き通り、みずほ銀行宇都宮中央支店跡地に、サテライトキャンパスとして二〇〇六年春に開学をめざすことになりました。最新のIT技術を駆使した各種教育施設や図書室も完備されたこのキャンパスでは、

なお、五月十五日(木)から「下野新聞」経済面で特別企画記事「都市を考える」が毎週木曜日に計二十回にわたり連載され、那須大学の先生方により、自然との共生、中心市街地衰退、コミュニティ、生活環境、交通など、都市をめぐる諸問題についての分析と提言がなされました。

社会人学生向けや基礎教育部門の講義を中心に、公開講座や地域との共同研究などを行う予定。また、明治十年代に旧富士銀行の前身である安田銀行が開業を始めたこの地は、日本産業史からみても意義ある場所です。

二十一世紀をになう都市問題の研究拠点として、また中心市街地の新名所として、どのようなキャンパスになるのか。皆さま、どうぞご期待ください！

**セメスター制採用・二コース制導入・センター試験参入**

全国で唯一の都市経済学部を擁する大学として開学し、今年で六年目を迎えた那須大学。昨年四月に集まった第一期生は、国家公務員・市役所や伊藤忠商事などの総合商社・金融・保険業等、就職氷河期の中にもかかわらず九十八パーセント超える就職率を達成することができました。また、大学院進学者も筑波大学や慶應義塾大学をはじめ十三名にのぼるなど、着実に実績をあげています。

新たに採用された「セメスター制」、

時代の変化や社会のニーズに即応した新カリキュラムの編成、二十一世紀のまちづくりのリーダーを育成する「都



▶ 中川英子先生の「福祉クラフト」のご講義を受講中の生活教養科二年生の皆さん。(11月15日土)に行われた宇都宮短期大学祭・福祉特別講座から

市環境デザインコース」とビジネスリーダーを育成する「都市情報ビジネスコース」の2コース制の導入。さらに、大学入試センター試験を受験することも可能になりました。

二十一世紀をリードする那須大学に、どうぞご期待ください。

**宇短大も充実  
人間福祉学科と音楽科**

これまでの社会福祉専攻と介護福祉専攻に加え、昨年四月に新設された幼児福祉専攻！卒業後は、国家資格である保育士や社会福祉士主任任用資格、幼稚園教諭二種免許などが取得できます。

音楽科の夏期講習会と同時に行われたオープンキャンパスには県内外から二百名を超す参加者が訪れ、「音楽」と「福祉」の時代の中で、専門職を目指す高校生のみならずの真剣な熱意を感じることができました。

**明るく活発な生徒会づくりを**

—— 新生徒会長に就任して ——



この度、皆様方からのご推挙をいただき、平成十六年度の生徒会長という大役を任されることになりました。自分を成長させ得ることのような機会を与えて下さったことに、今、心より感謝しております。

昨年度私は、生徒会生徳会議長団の一人として、様々な話し合いの司会進行にたずさわる立場にありました。しかし実際のところ、自ら積極的に仕事をすることもままならず、ただ見よう見まねで先輩方に引張っていただいていたように思えます。

ところが、これからはこの私が、今までの先輩方がされてきたように、他の生徒会役員をはじめ、全校生徒の皆様をリードして行かなければならない立場になるわけです。先輩の生徒会役員や顧問の先生方に甘える気持ちを、一日でも早くぬぐい去り、生徒会長としての自覚を持ちたいと思います。そして、新役員の皆さんと協力して、一人一人が積極的に、かつ楽しんで生徒会活動を行っていきけるようにしたいと思います。

では、その活動内容についてですが、これまでも生徒会では様々なボランティア活動を行ってまいりました。ごく近年のものでは、「三円ワクチン募金」や「難民救済活動」などといったものです。今年度はそれらに加え、未使用の文房具

新生徒会長

羽鳥 可奈子

やもう着られなくなった衣類を校内で募集し、世界中の困っている人々に寄付してはどうかと考えています。

さらに、私は少しでも多くの人に、「身体障害者」と呼ばれる人々への理解を深めていってほしいと願っています。そのためにもまず、手話や点字を身近に感じられるようPRを行っていききたいと思っています。

また、新年度の大きな行事としては昨年度に引き続き、学祭祭が予定されています。生徒会としてもチャリティ・バザーだけではなく、他にも楽しく、またそれぞれが充実した気分を味わえるような催しができないものかと、今から思案を巡らせています。

さて、最後になりましたが、生徒会長としてご承認下さいました生徒の皆さまのご期待に充分応えられるよう、精一杯がんばりますので、どうぞ温かく見守っていただきたいと思っております。そして役員の方、今までの間本当にお世話になりました。先輩方のおかげで楽しく充実した活動することができました。私達もそれを受け継いで、笑顔の絶えない生徒会を目指していきたいと思っております。また、これから共に力を合わせて行く生徒会役員の方、全校生徒の皆様、これからご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、一生懸命頑張りたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。そして、顧問の先生方、どうかこれからもご指導の程よろしくお願いいたします。

# 学園告知板

## 那須大学の第三代学長に、 副校長・須賀英之先生が就任！

学校法人須賀学園副理事長で、附属中学・高校の副校長をはじめ、宇都宮短期大学学長代理や那須大学副学長等の要職を兼務されていた須賀英之先生(48)が、昨年の四月に那須大学の第三代目学長に就任されました。(他の要職を兼務) 那須大学の詳細については、本誌「那須大学コーナー」およびホームページをご覧ください。

## 全国調理師養成施設協会から表彰！

このたび、本校は、長年にわたる調理師養成教育の振興ならびに貢献が認められ、社団法人日本調理師養成施設協会から表彰を受けました。同時に、

本校調理科の講師でいらっしやいます新井好壽先生も表彰を受けられました。が、新井先生は、一昨年十二月(平成十四年度)の厚生労働大臣表彰(調理師関係功労者)に就いてのダブル受賞となります。

## モーツァルト作曲「クイエム」に感動！ 宇都宮短期大学特別定期演奏会を開催！

宇都宮短期大学特別定期演奏会が二月十一日(水・建国記念の日)午後六時から、宇都宮短期大学副学長・田淵進先生の指揮、宇都宮短期大学・同附属高等学校音楽科管弦楽団・合唱団により、栃木県総合文化センターメインホールにおいて盛大に開催されました。特に今回は、栃木県合唱連盟(理事長・萩野久一先生)の皆さまのご協力をいただき、ソリストとして現役で活躍中

の三名の本校音楽科卒業生をお招きしてのビッグステージ！  
ベートーヴェン作曲…交響曲第一番ハ長調、そしてモーツァルト作曲…レクイエム。二短調の演奏に、客席からはアンコールの嵐がなりやみませんでした。

## 高橋美帆さん(普通科特進コース三年)が 書道で日本武道館賞を受賞！

普通科特進コース(文系クラス)二年五組の高橋美帆さんが、第十九回高円宮杯日本武道館書道大賞(毛筆の部)で、みごと日本武道館賞を受賞しました。今回の作品は、光明皇后「樂教論」からの臨書です。(次頁参照)  
また、第十二回「とちぎ教育の日」生涯学習フェスティバル参加・第二十七回栃木県高等学校書道展(主催：栃木県高等学校文化連盟書道部会)が、平成十五年十二月六日(土)から八日(月)にかけて県総合文化センター第四ギャラリーにて行われ、県内三十一校から計百九十六点が出品。その中で、本校か

# 己馬可也 今樂

らは、調理科三年二十三組の鈴木智恵美さんが優秀賞(玄宗の「石臺考終」)、生活教養科二年十九組の丸山規子さんが奨励賞(王羲之の「蘭亭叙」)、同二年十七組の堀内理美さんが佳作(趙子昂の「真草千字文」)を、それぞれ受賞しました。

## きのこ・山菜料理コンクールで 最優秀賞(栃木県知事賞)に！

十月七日(火)にテブコ・ラ・フォンテで行われた「第十六回 きのこ・山菜

料理コンクール」(主催：栃木県・栃木県特用林産協会)一般の部で、調理科三年の星野浩朗君(宇都宮市立星が丘中学校出身)が「いためきのことミルフィユ風きのこライス」でみごと最優秀賞(栃木県知事賞)を、同・篠崎司君(真岡市立真岡西中学校出身)が優良賞を、それぞれ受賞しました。今回は、県内外から計三六九名の応募があり、その中から厳選された八名の料理で審査に臨みました。

## イギリスのトムリンズ・カレッジが来校、 ミュージカルを上演！

すっかり秋も深まった十月十七日(金)、栃木県ジュニアミュージカル協会と栃木県生涯学習財団の共催により、イギリスの首都ロンドン南部のサリー州カンバリー市にあるトムリンズ・カレッジ(伝統ある中高一貫校)から芸術専攻学生二十八名と先生方十一名の皆さんが来校し、本校での体験学習とミュージカル「オリバー」の公演が行われました。



和食の実習を初体験！  
(写真：金田敏彰先生)

当日は、午前中に茶道のお手前と和食の調理実習を体験いただき、午後には須賀栄子記念講堂大ホールで、本校附属中と音楽科生徒にすばらしい



ミュージカルをプレゼント！  
歌あり涙ありの感動的な舞台に、客席からは大きな拍手が鳴り止みませんでした。

**生活教養科三年生が「とちぎレッシュュメイト」の冬服デザイン**

このたび、生活教養科三年生のグループが、平成十五年度「とちぎレッシュュメイト」の冬服デザイン・製作を担当し、十月二十四日(金)から二十六日(日)にマロニエプラザで開催された「ふるさと栃木フェア」でステージ発表しました。これは、毎年新春恒



「ふるさと栃木フェア」で。



例の「いちご祭り」における本校のファッションデザイン発表の成果から、とちぎ農産物マーケティング協会(県農務部所管)より製作依頼を受けて行われたもので、本県農産物のブランドイメージの強化にふさわしい「気品とみずみずしさ」を表現したデザインが、校内選考を経た一四〇点中十点左右に厳選されました。今後、全国各地で開かれるイベントやキャンペーンなどで、コンパニオンの二人とともに「とちぎブランド農産物」のイメージアップと効果的な普及・浸透をはかってまいります。  
栃木の特産品「いちご」をイメージした衣装に、どうぞご期待ください！

**かんびよう料理コンクールで調理科生徒が特賞にかがやく！**

十一月五日(水)に栃木県消費生活センターで行われた「かんびよう料理コンクール」(主催：栃木県干びよう生産流通連絡協議会)におきまして、調理科二年の鷹猪麻貴さんが「かんびようギョーザ」でみごと特賞(栃木県知事賞)に！二等には同じく調理科一年・角谷美希さんの「ふくべチップクッキー」と猪瀬あゆみさんの「かんびようグラタン」が、また三等には同二年・田上詩織さんの「かんびようのカレー巻き揚げ」がそれぞれ入賞しました。

**「益子焼の器に合う料理コンテスト」で準グランプリに！**

このたび益子焼開窯百五十周年記念「益子焼の器に合う料理コンテスト」(益子焼開窯百五十周年事業実行委員会・下野新聞社・主催)におきまして、

調理科三年の福田真規さん(日光市立中宮祠中学校出身)の「りんごのフルーツケーキ」がみごと準グランプリに輝きました。これは、県内外から応募のあった四二一点の作品の中から、一次審査と二次審査を経て五一点の作品を厳選したあと、下野新聞紙面と同

ホームページで一般読者、消費者の投票により最終審査を実施した結果入賞したものです。  
ぜひ、すてきな器とおいしいケーキのコラボレーションを楽しんでみたいものです！



illustrated by 設楽 貴O





二〇〇四年(平成十六年)というこの年に、生徒会誌「ひめまつ」第五十八号を皆さまにお届けできる事を、私たち編集委員一同心より嬉しく思っております。

まず、巻頭の須賀淳校長先生の随想では戦時中における校長先生自らの受験体験譚を、続く須賀英之副校長先生の随想では先生ご自身のリゾート開発に学ぶ教育論について、それぞれ貴重な経験を踏まえてご執筆をいただきました。そこからは、長い歴史と伝統をもつ私たちの学園が、新しい時代の到来と共に今後なお一層充実発展し、目覚ましい躍進を続けていくであろうことが、先生方の気概や熱意とともに感じ取れるはずです。

そして、巻頭グラフでは、昨秋行われた須賀学園創立百三周年記念学校祭の様子を、また特集記事では、本校の“学力向上”に対する取り組みの数々をお伝えできたと思います。附属中コーナリ、那須大・宇短大人間福祉学科コーナリその他にも読書感想文や意見文、HR紹介等すばらしい作品が多く、皆さまからお寄せいただいた写真やイラスト・カットも大いに誌面を飾ってくださいました。

「私たちが携ったこの『ひめまつ』は、戦後間もない一九四七年(昭和二十二年)三月に創刊されました。その長い歴

史と伝統を踏まえ、さらに本学園の“語り部”としての百年、二百年の礎になるのかと思うと、多くの皆さまにぜひ隅から隅まで読んでいただき、一世紀かわらぬ本学園の「全人教育」の今日の姿を共有したい、という心持ちがより強く湧いてまいります。

最後になりましたが、一年間にわたり懇切なご指導をいただきました編集委員会顧問の柳 清和・水沼智恵・石川智規の各先生に、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

(編集委員長・設楽貴生)

## 校史と校章

平成15年は、ミレニアム(新1000年紀)21世紀の3年目にあたります。本学園は、昨年11月3日で創立103周年の記念日を迎えましたが、平成11年4月に全国初の都市経済学部をもつ那須大学が開学して5年目、また平成14年4月に新設された普通科・応用文理コースも2年目を迎えることができました。さらに、この平成16年4月には、普通科特進コースと応用文理コースがリニューアル、那須大学・宇短大ともに新たな内容がつけ加わります。

思えば、本学園は明治33年(1900年)に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学(音楽科)を新設し、高校も宇都宮短期大学附属高等学校と改名されました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代目現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校(中・高6か年一貫教育)を併設され、那須大学開学、短大の学科増設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

本校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、本校生徒一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きつづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章は、カタカナの「ス」を3個組み合わせで図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。(合印とは、いわば目印のようなもので、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その腕につけさせ、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。)これは、須賀家の家系譜から第2代目校長須賀友正先生が校章と定めたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしていて、いかにも清純な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。

「ひめまつ」第五十八号(非売品)  
平成十六年三月一日印刷発行

宇都宮市睦町一番二十五号

宇都宮短期大学附属高等学校

福集人 顧問 柳 清和

発行人 生徒会長 羽鳥 可奈子

印刷所 宇都宮市鶴田町一三九の一

ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

〇二八(六四八)一一一

印刷人 山本 征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒321-8585

TEL 〇二八(六三三)四一六一三番

FAX 〇二八(六三三)三五四〇

ホームページ <http://www.utanf-jh.ed.jp>